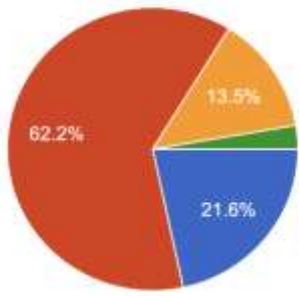


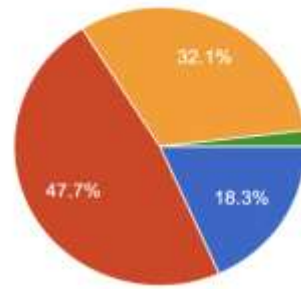
5、6年生児童

5、6年生保護者

授業にやる気をもって臨んでいる
185件の回答

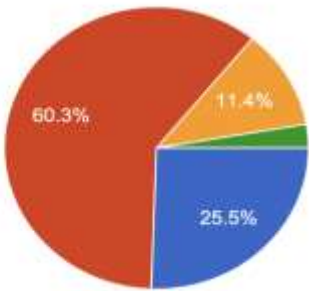


子どもは意欲的に学習に取り組んでいる
109件の回答

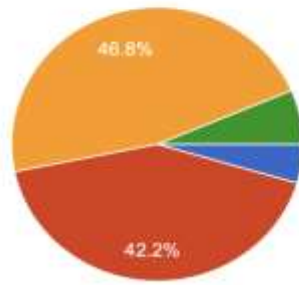


● とてもそう思う
● そう思う
● あまりそう思わない
● そう思わない

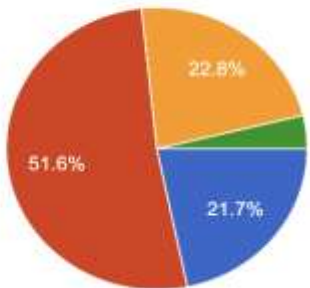
授業はよくわかる
184件の回答



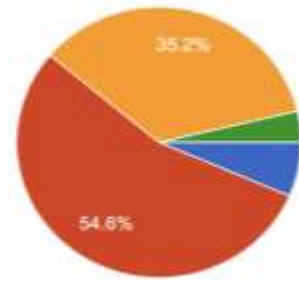
学習のことで子どもから話をするが増えた
109件の回答



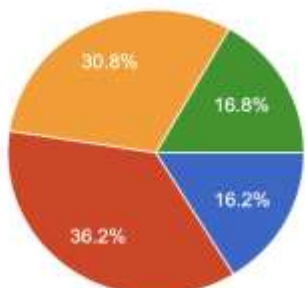
一つ一つの授業に気持ちを切り替えて臨んでいる
184件の回答



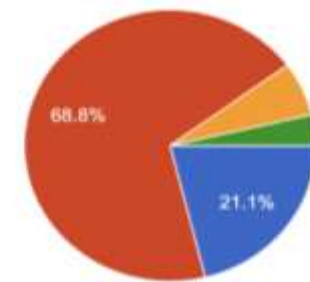
授業の切り替えにメリハリがつき、中学校への移行がスムーズになった
108件の回答



学習や学校生活のことで相談できる先生が増えた
185件の回答



様々な先生に関わってもらえている
109件の回答



1 学習意欲や理解について

意欲: 児童→83.8% 理解: 児童→85.8%

・「授業がわかりやすい。」「力がついた」などの児童の声があり、教科担任制の効果を実感している。
・保護者からは、「教科によっては、専門の先生が入ってくださっている場合があり、これまでとは違った視点で声をかけてくださるので、昨年まで本人が苦手だと思い込んでいた教科も楽しくなってきた」と言っており、意欲的に取り組むようになった。「教科が変わることにより先生も変わって、子どもはより勉強に集中しやすいようです。」など、教科担任制による子どもの学びの深まりや効果に関する評価をいただいた。
・教師の指導の違いへの戸惑い、より良い学びに関する要望など、貴重な意見もいただいた。子どもの思いや課題などを担任がさらに共有し、「学びがいのある授業づくり」を目指すとともに、担任自身の持ち味を存分に発揮することで豊かな学びへとつなげていきたい。

2 複数の教職員が関わることについて

児童→52.4% 保護者→89.9%

・「学習や学校生活のことで相談できる先生が増えた」の項目で肯定的回答をした児童は前期よりも15%程度減少した。教師による指導や授業の進め方、関わり方の違いに戸惑いや抵抗があるのかもしれない。授業をとおして子ども理解をさらに進め、関わりを深める協働的な学びを重視していきたい。
・「勉強のことだけでなく、子供一人一人やクラス内の状況など担任の先生が目線だけでなくたくさんの先生に関わっていただけることでいろんな視野や、考えでクラスを見ていただけるので良いのではないかと思います。」など、7月調査に引き続き、複数で多面的に子どもを理解できる教科担任制の仕組みに多くの保護者に理解をいただいている。
・「子どもの弱い苦手なところは家でも指摘しがち。各教科の先生はそうではなく、強みになる、得意な方面を見つけて、子どもに話してほしい。その方が前向きにやりたい勉強ができる子になると思います。」など、家庭と学校とが協力して子どもの育ちを支えていくための大切なご意見もいただいた。
・授業時間のけじめや学習の深化と、学校生活や学習に対する規範意識の向上は密接に関連していると考えている。徹底していくべき課題である。
・今年度、マイナーチェンジしながら貴生川小ならではの仕組みを模索してきた。「学びの喜び」を子どもが味わうことが何よりも大きな目的である。次年度も学校あげでの取り組みの一つとして研鑽したい。

分析 教頭

